

# 川崎市 CNK構想 動画ナレ原稿

## オープニング

ナレーションなし

## シーン①川崎臨海部は産業競争力あるコンビナートです

シーン①-1：川崎市の地図を表示

東京都と多摩川を隔てて隣り合う川崎市。全国に20ある政令市の中で最も面積が小さい都市ながら、多様な産業と高い技術力が集まっています。

シーン①-2：臨海部を選択～概要の説明

臨海部には、石油・鉄鋼・エネルギー、プラスチックリサイクル、物流などの施設が集まっており、都市の機能や市民の生活を支えています。

シーン①-3：4つのポイントを表示

川崎臨海部における、産業の特徴を説明します。

シーン①-4：各ポイントを説明

4-1：LNGや天然ガスを受け入れるためのインフラが整っており、安定したエネルギー供給を支える重要な拠点になっています。

4-2：化学企業や素材産業が集まっており、生産の効率化や連携が進みやすい環境が整っています。

4-3：工場の様々な場面で水素が活用されており、企業間を結ぶ水素パイプラインも敷設されています。

4-4：国内最大級のプラスチックリサイクル拠点があり、資源循環を進める重要な拠点となっています。

シーン①-5：4つのポイントを表示

これらが川崎臨海部の大きな強みであり、エネルギーを安定して供給し、ものづくりを支えています。

## シーン②そもそもコンビナートとは

シーン②-1：コンビナートの地図～その一つが川崎に！

日本には9つのコンビナートがあり、そのひとつが川崎です。

シーン②-2：コンビナートの地図～その一つが川崎に！

コンビナートでは、海外から輸入した石油を精製する工場や原料をつくる化学工場、発電所等が、近い場所に集まりお互いに連携することで、エネルギーや身の回りにある製品の素材を効率よく生み出しています。一つひとつの工場がつながり合い、大きな産業の流れをつくっています。

### シーン③コンビナートを取り巻く環境の変化・競争力あるコンビナートであり続けるために

シーン③-1：首都圏地図～CO2を排出している

川崎臨海部はこれまで、首都圏にエネルギーや素材を届ける一方で、多くのCO2も排出してきました。

シーン③-2：地球温暖化のイラスト

地球温暖化が進む中、CO2排出を吸収や削減で実質ゼロにするカーボンニュートラルの取り組みが、これまで以上に重要です。

## ④CNK構想概要

シーン④-1：タイトル表示（川崎カーボンニュートラル構想を策定）

2022年3月、川崎カーボンニュートラルコンビナート構想を策定。

シーン④-2：臨海部の現状～カーボンニュートラル化の原動力になる

川崎臨海部の強みであるエネルギーと素材を生み出す拠点であり続けつつ、CO2に対応するカーボンニュートラル化に取り組むことにしました。

シーン④-3：臨海部のこれまで～これから

これまではエネルギーや素材を生み出すと同時に、多くのCO2が放出されていましたが

これからはCO2を資源として使い、循環させる取り組みが進んでいきます。

シーン④-4：2050年の将来像実現に向けて

ナレーションなし

シーン④-5：現在の川崎臨海部のイメージ図

現在の臨海部では、海外から届く原油やLNGが石油精製プラントや発電所へと運ばれて、使われています。そこで生まれたエネルギーや素材が首都圏へ届けられる一方で、工場からはCO2が排出されています。

## シーン④-6：2050年の川崎臨海部のイメージ図

2050年に向けて、この流れを大きく変えていきます。

水素などにより生産したCO<sub>2</sub>フリー電力を活用、また、CO<sub>2</sub>の回収や日常生活で排出されたプラスチックの再資源化、さらに、エネルギーを工場や施設で循環させて効率的に利用。これらの取組を通じてカーボンニュートラルなコンビナートに変わっていきます。川崎臨海部がどのように変わろうとしているのか、具体的な取組をご紹介します。

## ⑤具体の取組① 水素戦略

シーン⑤-1：タイトル表示

ナレーションなし

シーン⑤-2：水素戦略の図解

川崎臨海部では、水素を中心とした新しいエネルギーづくりを進めています。海外からCO<sub>2</sub>フリー水素を受け入れ、大規模な施設で活用する取組です。水素の有効性や安全性を伝え、社会での理解も広がっていきます。

## ⑥具体の取組② 炭素循環

シーン⑥-1：タイトル表示

ナレーションなし

シーン⑥-2：炭素循環の図解

川崎臨海部では、化石資源に代わる資源として、プラスチックやCO<sub>2</sub>を炭素資源として循環させる取組も進めています。川崎市内外から排出されるプラスチックの高度なリサイクルや、臨海部で排出されるCO<sub>2</sub>の回収・再資源化など、炭素資源を素材や製品に循環させていきます。

## ⑦具体の取組③ エネルギー地域最適化

シーン⑦-1：タイトル表示

ナレーションなし

シーン⑦-2：エネルギーの図解

カーボンニュートラルなエネルギーなどの限りある資源を無駄なく活用するためには、地域全体で省エネなどに取り組む必要があります。パイプラインなど地域にある設備を最大限活用すると共に、その拡大に向けた取組を進めています。

## ⑧行政と地域が一体となってCNに取り組んでいきます～まとめ：

シーン⑧-1：行政と地域が一体となって

水素、炭素循環、エネルギー地域最適化。これらの取組を通じてカーボンニュートラルに取り組んでいきます。

シーン⑧-2：連携、誘導

地域の企業の皆さんと連携して、さらに一緒に取り組む仲間を増やしながら、世界から選ばれる産業競争力をもち、日本のカーボンニュートラル化をリードし、市民の誇りとなるコンビナートをめざします

シーン⑧-3：ED